

第 49 回 中国地区英語教育学会 研究発表大会

日 時： 平成 30 年 6 月 23 日（土）13:00～16:30

会 場： 山口大学教育学部
〒753-8513 山口県山口市吉田 1677-1

大会実行委員長： 高橋 俊章

大会事務局： 猫田 和明

12:30～13:40 受付（教育学部正面玄関）

(11:00～12:30 理事のみ： 理事会（教育学部 C 棟 3F 第 3 会議室）

13:00～13:30 総 会（教育学部 B 棟 2 階 22 番教室）

13:40～16:30 自由研究発表（教育学部 B 棟の 2 階と 4 階）

18:00～20:00 懇親会（IZAKAYA 土火土火 会費 5 千円程度）
山口県山口市熊野町 5 - 7 083-920-3848

【自由研究発表】 13:40～16:30

	第1室 2階 22番教室	第2室 2階 23番教室	第3室 2階 24番教室	第4室 4階 41番教室	第5室 4階 43番教室
13:40 ～ 14:10		日本人英語学習者の文字学習におけるつまづきに関する研究	身体を使った「クジラ構文」の指導に関する提案	経験ある英語教師の教科書改作の意図に関する研究	
14:15 ～ 14:45	大学生英語学習者による英訳と訳註の関係—異文化の読者へ向けた俳句の英訳活動から—	A DESCRIPTIVE CASE STUDY OF TEACHING AND LEARNING IN AN ENGLISH IMMERSION ELEMENTARY SCHOOL	日本人中高生の英語前置詞の誤用傾向についての分析	CEFR-Jの語彙と高等学校の検定教科書の語彙との比較(2)	英文要約におけるパラフレーズの指導に関する研究
14:50 ～ 15:20	談話構造を意識した中学校英語指導法—「やり取り」と「発表」に焦点をあてて—	小学校英語における日本、韓国、台湾の「新教材」「教科書」の内容構成から見えるもの～三者の対比からの考察を通して～	短期海外語学研修の効果に関する一考察	英語の歌の学習理由と学習経験の影響—高校生の自己認知から—	5年間を振り返って—呉高専と連携校間で行ったスカイプ交流授業のまとめ—
15:25 ～ 15:55	英語の対話文を読み取る力と基礎的構造の英文を書く力の関連性—処理スピードに着目して—	地域を題材とした小中一貫の英語学習に関する事例研究—CLILの4Cの視点より—	チーム基盤型学習(TBL)が知識獲得、理解深化、表現力養成に与える影響—英語学の授業実践から—	教職履修学生の教授言語に対する好みに影響を与える要因	スピーキング能力の評価傾向を自己診断するためのオンラインシステムの開発
16:00 ～ 16:30	大学生の協同学習に対する認識と英語教育科目に係る動機づけ要因との関係			典型的な構文に現れる間接発話行為の解釈	英検「2級」二次面接試験問題の「素材」と「質問文」の特徴

* 42番教室は休憩スペースとしてご使用ください。ゴミはお持ち帰りください。

第1室 (2階 22番教室)

	発表タイトル・発表者	発表要旨
14:15 ～ 14:45	大学生英語学習者による英訳と訳註の関係 ―異文化の読者へ向けた俳句の英訳活動から― 水島 祐人 (広島大学大学院生)	本発表は、大学生英語学習者による俳句の英訳と訳註の活動の成果を示すことを目的とする。具体的には、非日本語母語話者が俳句を理解するための補足情報や、原文に対する学習者自身の考えを訳註によって追加できること、また活動を通して、日英語の意味の不一致、文法構造の違い、文化上の差異などに学習者が意識を向けることを示す。
14:50 ～ 15:20	談話構造を意識した中学校英語指導法―「やり取り」と「発表」に焦点をあてて― 又野 陽子 (山口市立鴻南中学校)	新学習指導要領では、4技能が5つの領域で示されるようになり、「話すこと」が「やり取り」と「発表」という焦点が異なる領域に細分された。本発表においては、生徒の即興的な「やり取り」や「発表」を支える教材研究のあり方や授業中の手だてを教材や教室内の談話構造の面から吟味し、実践事例を報告する。
15:25 ～ 15:55	英語の対話文を読み取る力と基礎的構造の英文を書く力の関連性―処理スピードに着目して― 浅井 智雄 (福山平成大学)	読む力と書く力に関わる認知能力の関連性を英文処理スピードの点から検討した。大学初学年生を対象として、英語の対話文と基礎的構造の英文を素材とした調査を行った。発表では、分析結果を基にして、高校段階の学習事項の積み残しとともに、外国語としての英語学習におけるより効果的な読むことと書くことの指導のあり方についても言及する。
16:00 ～ 16:30	大学生の協同学習に対する認識と英語教育科目に係る動機づけ要因との関係 宮迫 靖静 (福岡教育大学)	本発表は、大学生の協同学習に対する認識と英語教育科目に係る動機づけ要因との関係について発表する。参加者の協同学習に対する認識をクラスター分析し、この認識に関する三群間で英語教育科目に係る動機づけ要因を分散分析した結果、英語教育科目に係る能力、関連性、同一化調整に対する認識において有意差が示された。

第2室 (2階 23番教室)

	発表タイトル・発表者	発表要旨
13:40 ～ 14:10	日本人英語学習者の文字学習におけるつまづきに関する研究 坂本 航星 (広島大学大学院生) 兼重 昇 (広島大学)	本研究は、日本人英語学習者の文字学習における困難点に関して、特に「文字・単語・文レベルを書くこと」に着目し、これまでの先行研究をまとめるとともに、実際に小・中学生・大学生が抱えている課題や指導の効果について、実態を調査したものを発表する。
14:15 ～ 14:45	A DESCRIPTIVE CASE STUDY OF TEACHING AND LEARNING IN AN ENGLISH IMMERSION ELEMENTARY SCHOOL レイス オスカー (学校法人 就実学園 就実小学校)	This study was conducted to determine the kind of teaching and learning that takes place in an English Immersion school in Okayama City in Japan. This school is started its English Immersion program three years ago, so it is a fairly new program. This is a multiple qualitative study that focused on the teaching styles of three teachers at the school.
14:50 ～ 15:20	小学校英語における日本、韓国、台湾の「新教材」「教科書」の内容構成から見えるもの～三者の対比からの考察を通して～ 渡部 靖徳 (前山口市立井関小学校・周南市立岐陽中学校)	今年度から、新学習指導要領の移行措置により、小学校英語の試行錯誤が始まっている。「新教材」Let's Try!1.2及びWe Can!1,2と韓国、台湾の小学校英語の教科書各1社ずつの内容構成の比較を通して、日本と、韓国、台湾における小学校英語の現状、今後の方向性等について比較検討をしてみたい。

15:25 ～ 15:55	地域を題材とした小中一貫の英語学習に関する事例研究— CLILの4Cの視点より— 二五 義博 (海上保安大学校)	呉市の吉浦中学校校区では、過去2年間、「郷土を愛し、自分のよさ、地域のよさを豊かに表現できる児童生徒の育成」というテーマの下、小中一貫の英語教育を目指してきた。本発表では、「避難訓練」や「カニ祭り」等を題材とした授業およびアンケート結果の分析を行い、その成果を主にCLILの「内容」「言語」「思考」「協学」の視点から報告する。
---------------------	--	---

第3室 (2階 24番教室)

	発表タイトル・発表者	発表要旨
13:40 ～ 14:10	身体を使った「クジラ構文」の指導に関する提案 石井 達也 (広島大学大学院生)	宮内 (1966) によると「クジラ構文」は1906年の入学試験に出題されたほど古くから日本人英語学習者を悩ませてきた。本発表ではまず柏野 (2012) や八木 (2015) での「クジラ構文」の議論をもとに身体を使った指導法を提案する。また実際の指導後の生徒の自由記述を紹介し、身体を使った英語学習の可能性について言及したい。
14:15 ～ 14:45	日本人中高生の英語前置詞の誤用傾向についての分析 和田 考平 (島根県立飯南高等学校)	英語前置詞 in (以下、“in” とする) とは、その前置詞目的語が「容器」と解釈される場合に使用される言葉である (Lakoff & Johnson, 2003)。本発表は、“in” の意味論を概観した上で、日本人中高生の英作文をもとにして作られた Japanese EFL Learner's Corpus を見る。そして、“in” がどのように誤用されているのかを分析したところ、一定の傾向が見つかったので報告をする。
14:50 ～ 15:20	短期海外語学研修の効果に関する一考察 倉増 泰弘 (徳山工業高等専門学校)	私立 A 大学では、2013年から5年に渡り、夏季休業中の約1ヶ月間を利用して、フィリピン(セブ島およびパナイ島)で語学研修プログラムを実施してきた。本発表では、同プログラムの特徴や利点を紹介するだけでなく、プログラムの効果について考察する。特に、参加者が事前・事後に受験した TOEIC のスコアの伸びや非参加者のスコアとの差が統計的に有意であるか t 検定を用いて検証する。
15:25 ～ 15:55	チーム基盤型学習 (TBL) が知識獲得、理解深化、表現力養成に与える影響—英語学の授業実践から— 関谷 弘毅 (広島女学院大学)	本研究は、大学の英語学の専門科目において、チーム基盤型学習 (TBL) を取り入れて授業を実施し、知識獲得、理解深化、表現力養成に与える影響を、前年度に同科目を講義形式で行った場合と比較検討した。その結果、TBL を取り入れた授業は、知識獲得、理解深化、表現力養成に好影響を与える傾向が示された。

第4室 (4階 41番教室)

	発表タイトル・発表者	発表要旨
13:40 ～ 14:10	経験ある英語教師の教科書改作の意図に関する研究 山路 理恵 (広島大学大学院生)	本研究は、英語教師が教科書を改作する際の意図を明らかにすることを目的とする。調査は、教職経験20年以上の公立中学校の英語教師4名を対象とした。50分間の授業観察と半構造化面接を行い、得られた質的データを分析した。その結果、主に生徒と教師に関する意図があり、後者には言語教師及び一教師としての側面が見られた。
14:15 ～ 14:45	CEFR-Jの語彙と高等学校の検定教科書の語彙との比較 (2) 八島 等 (広島大学附属高等学校)	昨年に続いて、CEFR-Jの語彙と2冊の検定教科書の語彙との比較を行い、検定教科書の語彙がどの程度、CEFR-Jの語彙をカバーしているのかを調査した。昨年度は、コミュニケーション英語Ⅰの調査を行ったが、今年度は、コミュニケーション英語Ⅱの調査を行った。

14:50 ~ 15:20	英語の歌の学習理由と学習経験の影響—高校生自己認知から— 藤居 真路 (広島県立尾道商業高等学校)	英語の歌は、英語学習で活用されることがあるが、学習者にとって英語の歌がどのような意味を持ち、中学校時代の経験がどのように影響しているのか、について十分に明らかにされているとは言えない。そこで、本研究では、英語学習における英語の歌の意味等について探求したいと考えている。
15:25 ~ 15:55	教職履修学生の教授言語に対する好みに影響を与える要因 岩中 貴裕 (山口学芸大学)	本研究は教職履修学生の教授言語に対する好みに影響を与える要因を明らかにすることをその目的とする。調査参加者は 25 名の教職履修生である。アンケートによって彼等が英語の授業でどの程度日本語を使って欲しいと思っているのか、英語で行われる英語の授業に対してどのように思っているのかを明らかにすることを試みた。
16:00 ~ 16:30	典型的な構文に現れる間接発話行為の解釈 能登原 祥之 (同志社大学)	本研究は、英語の典型的な構文に現れる間接発話行為とその解釈の典型的なプロセスを明らかにし文法指導に位置付けることを目的とする。(1) 話し言葉コーパス (Spoken BNC 2014) から高頻度の典型的な構文の用例を抽出、(2) vanEk & Trim (1991) を参考に構文に現れる間接発話行為を記述、(3) 間接発話行為のメトニミー的解釈の典型的なプロセスを整理し教育的示唆を示す。

第 5 室 (4 階 43 番教室)

	発表タイトル・発表者	発表要旨
14:15 ~ 14:45	英文要約におけるパラフレーズの指導に関する研究 木村 康子 (岡山大学大学院生)	英文テキスト中の結論文をパラフレーズして英文要約の出発点とする時に、目標とすべきパラフレーズはどのようなものか、また、指導の際にはどのような点に留意すべきか。大学で長年英語教育に携わってきたエキスパートによるパラフレーズを分析し、指導に役立てたい。
14:50 ~ 15:20	5年間を振り返って—呉高専と連携校間で行ったスカイプ交流授業のまとめ— 上杉 裕子 (呉工業高等専門学校)	異文化理解と英語力向上を目的として、平成 25 年から 29 年までの 5 年間で、呉高専と提携校との間で実施したスカイプ交流授業を振り返り、実施方法、成果、問題点、今後の課題について考察する。3つの異なる連携校とのスカイプ交流授業をまとめ、相手先との連携・協力関係の築き方にも焦点を当て、今後の提案としたい。
15:25 ~ 15:55	スピーキング能力の評価傾向を自己診断するためのオンラインシステムの開発 猫田 英伸 (島根大学教育学部)	英語教員や英語教員を志望する学生が、学習者の英語スピーキングに対する自身の評価傾向を自己診断できるオンラインシステムを開発した。本発表では、実際に英語教員を志望する複数名の学生による評価データをライブで再現入力することで、システムの仕組みを簡単に解説するとともに、今後の活用可能性について論じる。
16:00 ~ 16:30	英検「2級」二次面接試験問題の「素材」と「質問文」の特徴 松浦 加寿子 (中国学園大学)・ 竹野 純一郎 (中国学園大学)・ 大橋 典晶 (中国学園大学)・ 達川 奎三 (広島大学外国語教育センター)	本発表では、英検 2 級二次面接試験問題で扱われる「素材」の内容と「質問文」で用いられる語彙・表現の特徴を検証する。英検 2 級では「社会生活」に関する内容が質問されるが、各設問の出題傾向を記述するとともに、コンコーダンサー「Antconc」などを利用して語彙・表現の特徴を明らかにする。

お知らせとお願い

● お知らせ

- ・昼食は、学生食堂「ポーノ」(教育学部ウラ)が営業しています(10:00~14:00)。
- ・自動販売機の位置は案内図をご覧ください。
- ・事前参加申込の締切は過ぎましたが、当日参加を受け付けております。なお、会員でない方は、当日会費(一般2,000円、学生1,000円)を、受付でお支払いください。大会事務局では入会や年会費の受付はできませんのでご了承ください。
- ・42番教室(4階)を休憩室としています。休憩にご利用ください。ゴミはお持ち帰りください。
- ・懇親会会場は、キャンパス内ではなく、湯田温泉の土火土火です。お間違いのないようご注意ください。なお、懇親会の当日受付は行っておりません。懇親会のキャンセルはお受けできませんのでご了承ください。
- ・**構内は禁煙です。ご協力をお願い致します。**

○ 研究発表をなさる方は以下の点にご留意ください。

- ・発表時間は20分、質疑応答は10分とします。
- ・計時係を各室に配置し、20分で1鈴、30分終了で2鈴鳴らします。
- ・司会者は依頼しておりませんので、質疑応答は発表者で行ってください。
- ・発表資料については、30部程度ご用意いただき、発表の直前に配布してください。
- ・会場にはプロジェクターとVGAケーブルしかご用意しておりません。その他、必要な機器類(パソコン、スピーカ、端子変換アダプタなど)はすべてご持参ください。

山口大学吉田キャンパスへのアクセス

JR 新山口駅—19分—湯田温泉駅—駅より徒歩約25分
(湯田温泉駅からタクシーで5分)

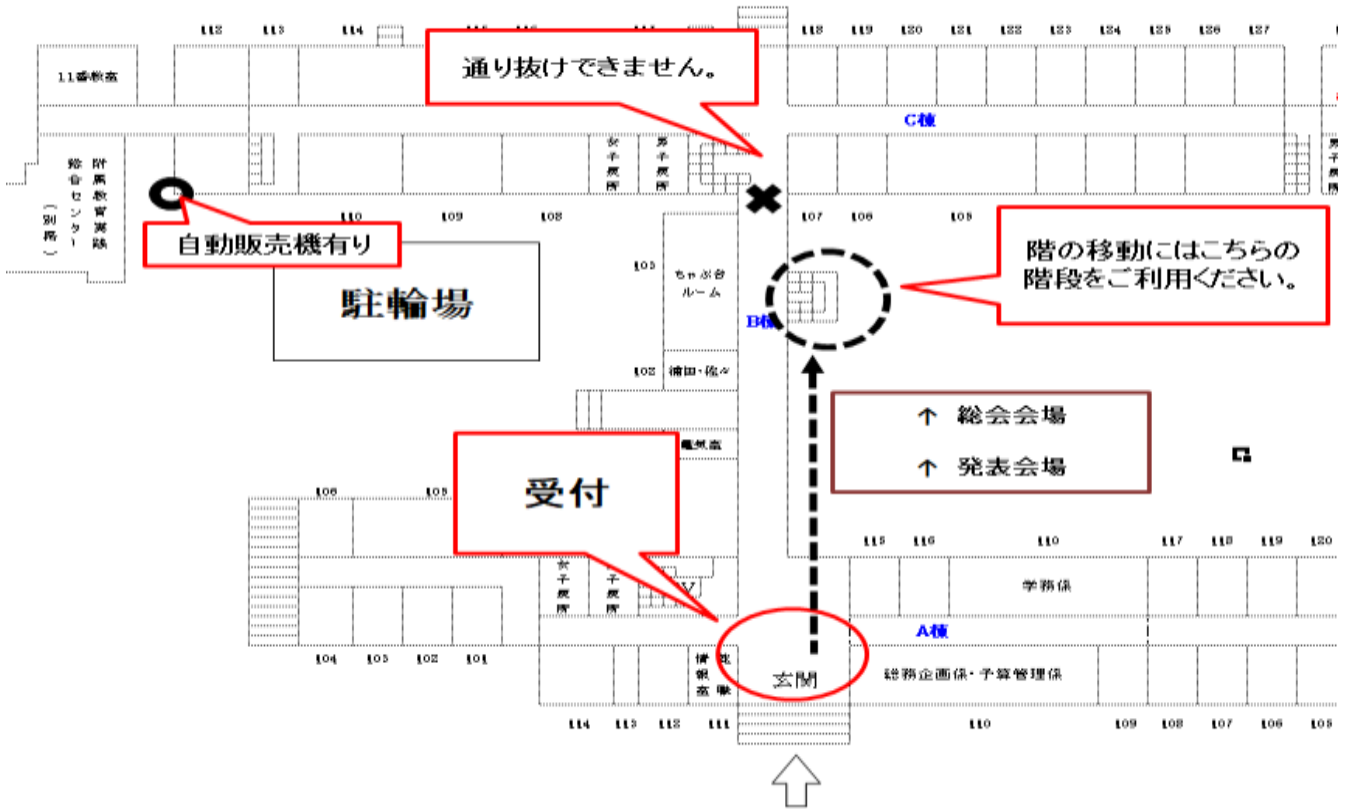
JR 新山口駅からタクシーご利用の場合は、吉田キャンパスまで約25分かかります。

防府東I.C.から車で30分、小郡I.C.から車で15分

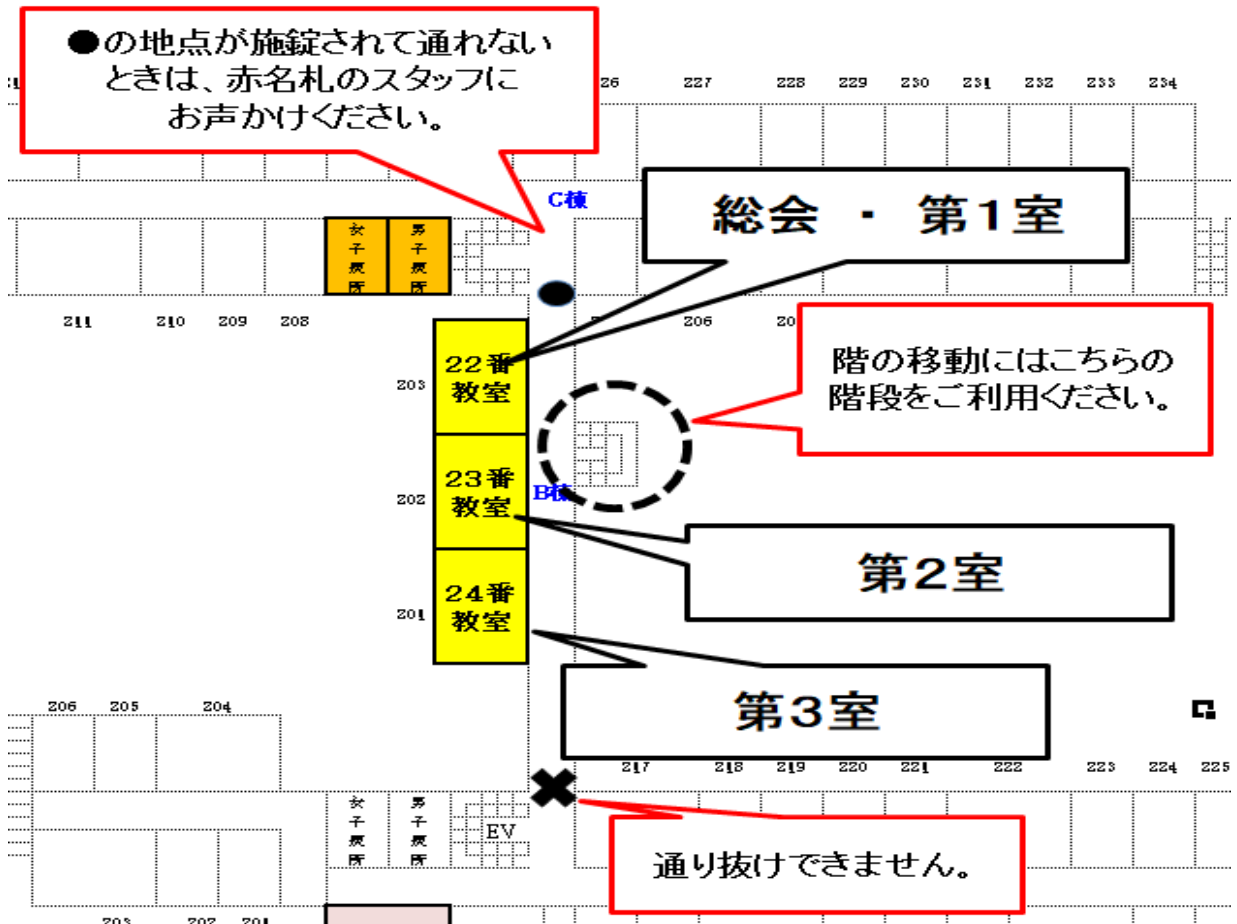
湯田温泉駅および山口大学周辺のタクシー会社

大隅タクシー	083-922-0860
いさむや第一交通	083-922-1368
山野タクシー	083-928-1940
中司タクシー	083-922-0812
湯田都タクシー	083-922-0232

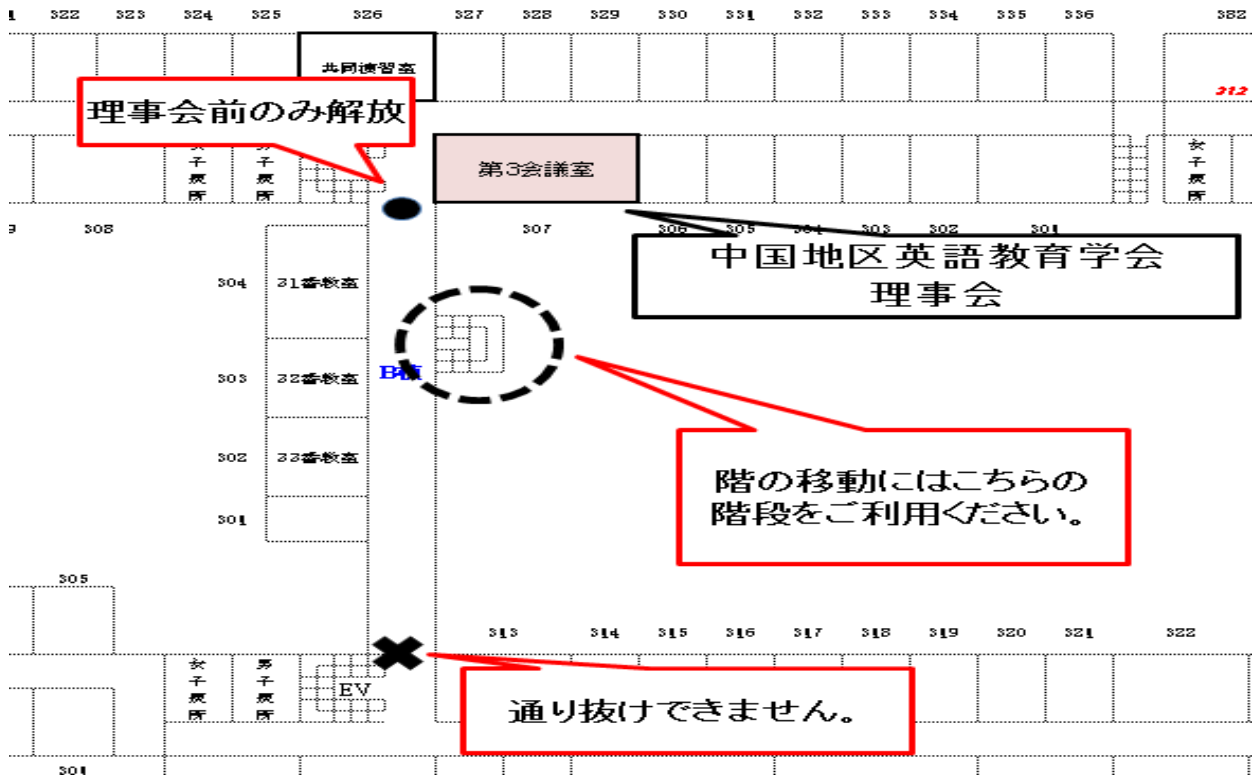
教育学部 (1 階)



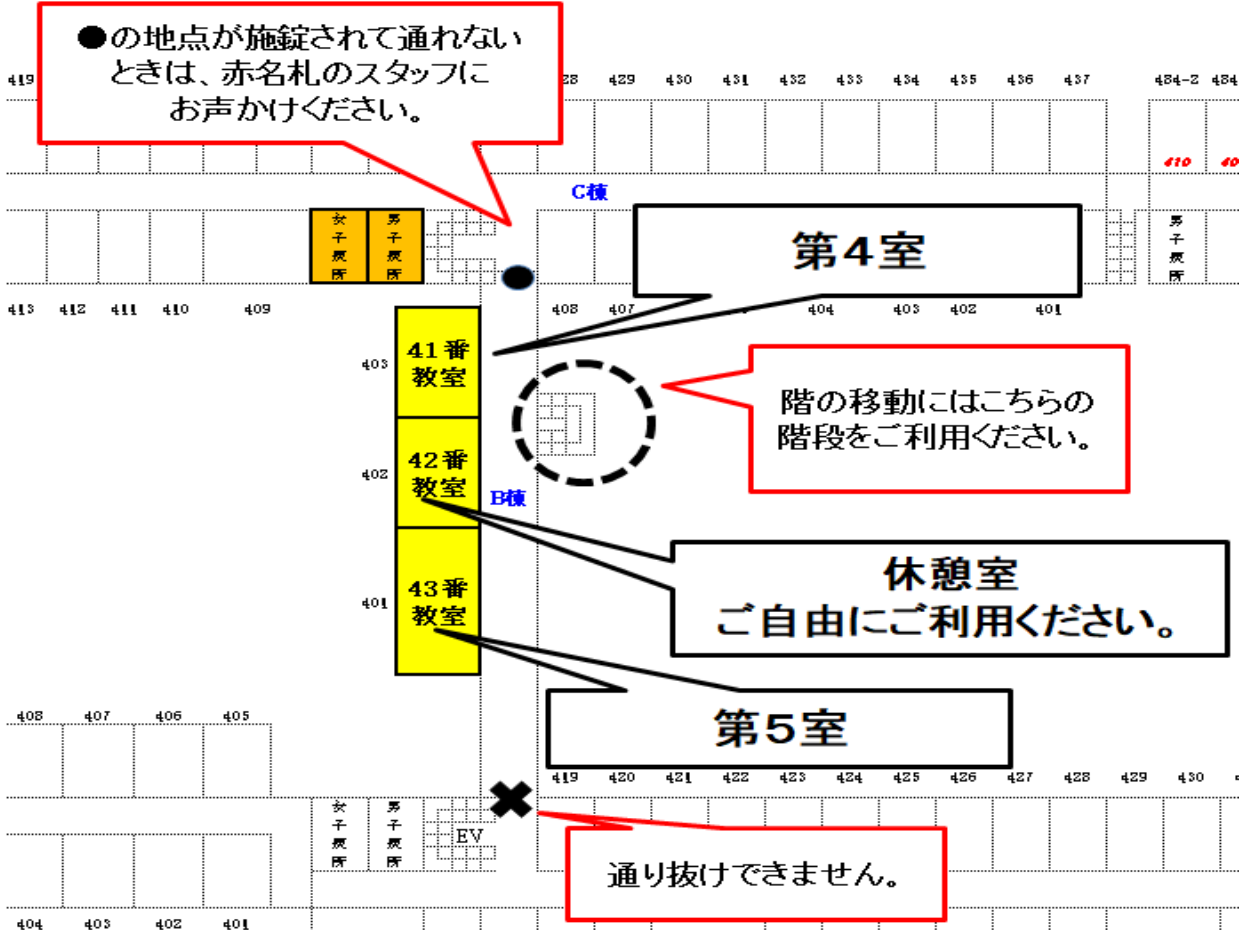
教育学部 (2 階)



教育学部 (3階)



教育学部 (4階)



懇親会会場（IZAKAYA 土火土火）の地図



道案内	山口線湯田温泉より徒歩10分。県道206号線を県道204号線方面に進む。204号線を越えた1つ目の十字路を右折、防長苑のそばにあります。	
住所	山口県山口市熊野町5-7	
電話	083-920-3848	
営業時間	月～土、祝日、祝前日: 18:00～23:00 (料理L.O. 22:00) 17:30～23:00(L.O. 22:00)	
定休日	日 日曜 ※月曜が祝日の場合、日曜営業の可能性がございます。	
カード	VISA、マスター、UC、アメックス、DC、JOB、UFJ	

**ケータイで
もっと便利に！**

